

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算      支出科目    款：土木費    項：河川費    目：河川総務費

### 事業名    清流の国ぎふづくり水環境イベント開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

県土整備部    河川課    企画環境係    電話番号：058-272-1111 (内 3727)

E-mail： c11652@pref.gifu.lg.jp

**1    事業費            894千円 (前年度予算額：    894千円)**

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	894	0	0	0	0	0	0	0	894
要求額	894	0	0	0	0	0	0	0	894
決定額									

## 2    要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「全国植樹祭」、「全国豊かな海づくり大会」、そして「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」をとおして、県民の水環境への関心は高まっているが、県民各自が高い意識を持ち、主体的に河川等の自然環境保全に取り組むためには、世代間をとおして、情報の収集・交換ができる場が必要である。

そのため、河川環境に興味を抱くような体験型のイベントを開催することで、河川環境を保全する取り組みへの理解や協力意識を深める。

### (2) 事業内容

次の世代を担う子ども達に、河川環境に興味や関心を抱いてもらい、川と川に棲む生き物に触れあう機会や身の回りの小さな自然に目を向け、「清流」の恵みを守り、伝えるきっかけとなるイベントを開催する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

河川法の目的には「河川環境の整備と保全」が位置付けられているため、河川管理者でもある県が主体となって取り組む必要がある。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	40	講師
旅費	40	出演者、事務局スタッフ
需用費	64	参加者用の水、消耗品
役務費	40	郵便費、保険料
委託料	700	当日運営補助委託
使用料	10	会場借り上げ費
合計	894	

### 決定額の考え方

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
「清流の国ぎふ」づくりを推進するため、県下の豊かな自然環境を将来にわたり守り・伝えることを目的に、次の世代を担う子ども達を中心に県民全体の自然環境保全に対する理解や協力意識を高める。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				(前々年度末時点)		
参加者に対するアンケート結果 (有益と回答/全回答者)	— (H )	100% (H29)	100% (H30)	92% (R1)	100% (R3)	92%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により開催を中止した。  
前々年度は、令和元年7月14日に河川環境楽園自然発見館及び北派川河川敷を会場として開催し、小学生の親子を中心に62名が参加した。  
① 模型を活用した治水実験、岐阜大学村岡准教授による防災教育  
② ライフジャケットの試着体験  
生き物調査

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
令和2年度は開催中止としたため、事業の成果はなし。  
前々年度は、イベントを通じて、川で安全に遊ぶためのルールや洪水から街を守るための防災施設の役割を学ぶとともに、生物調査の体験によって環境保全の重要性に対する理解を深めることができた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価) ○	次の世代を担う子ども達に、河川環境への興味や関心を抱いてもらうため、川や川に棲む生き物に触れあう機会を提供するイベントを行うことは、「清流の国ぎふ」づくりを支える人づくりとなることから、その必要性は高いと考える。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	親子で参加することで、災害や河川環境について家族で話し合うよい機会となることから、世代間をとおして「清流」の恵みを守り、伝えていくことが可能となるため、事業の有効性は高いと考える。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価) ○	川に近づく機会が最も多くなる夏休み前にイベントを開催するため、イベント後に学んだ内容を確認・体感する機会も多いと思われることから効率性は高いと考える。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 次の世代を担う子ども達に、イベントをとおして河川環境に興味や関心を抱いてもらい、世代間をとおして、「清流」の恵みを守り、伝えていくためには、本事業を継続的に実施していくことが必要となる。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 今後も「清流の国ぎふ」づくりを推進するため、子ども達が河川環境の保全に興味や関心を抱くよう、本事業を継続的に開催する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	